

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 6 日現在

機関番号：37102

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2013

課題番号：24653238

研究課題名(和文) 芸術学部における地場産業活性化のための実践的領域横断型教育プログラムの開発と構築

研究課題名(英文) The Contriving and Sustaining of Practical Educational Programs for the Regional Industrial Revitalization by the Department of Arts.

研究代表者

井上 友子 (INOUE, TOMOKO)

九州産業大学・芸術学部・教授

研究者番号：90330787

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円、(間接経費) 840,000円

研究成果の概要(和文)：福岡を中心とする地場産業の活性化と地域の伝統的工芸品の再興を素材とし、企業と大学間の連携を軸に、専門性を横断した実践的教育プログラムを実施した。

すでに現前化している問題の背後に予想される地場産業構造の崩壊を懸念し開始された本研究は、芸術研究機関として地域産業に新たな活力を生み出し、伝統的文化の理解・周知を促すと共に、それら連携活動を通じた人材の育成に貢献した。この実践的領域横断型教育プログラムの安定的実施は、学生の汎用的能力や実践力の修得に役立ち、さらにメディアの関心も高まったことから、地場産業や地域の伝統的工芸品の認知度向上に貢献した。

研究成果の概要(英文)： We have the purpose of revival on traditional craft-arts and regional industries in Fukuoka area, further more through the joint activities of university and industries. We are providing the practical educational programs with the expertise.

This study had started concerns about the collapse of the local industrial structures due to the problems had already existed at that time. And this study has been providing a new vitalization to the regional industries, prompted the understanding and well-known of traditional culture to the community, and contributing the development of human resources through this joint activities. Steady implementation of the practical educational programs help acquiring the practical and general skill for the students, and moreover many news medias have an interest in our study. Accordingly we have been contributing to the awareness of traditional craft-arts and regional industries.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：教育方法 伝統工芸 地域産業 地域連携 領域横断型プログラム 実践力修得 デザイン教育

1. 研究開始当初の背景

本研究は、九州の伝統的工芸品の販売力の低下により、それら技術の存続を懸念し開始された。地方色豊かな伝統的工芸技術が衰退し断絶することは、地域的特性のある産業の経済的不振を招き、地方の大学生の地元就職率を著しく低下させる要因のひとつとなっている。すでに現前化している問題の背後には、豊かな地方色や特色ある文化の喪失、地場産業構造の崩壊が懸念され、我が国の伝統工芸や文化の継承が不可能な時代がやがて到来するであろうことを憂懼させる。このような状況のもと、芸術教育機関として地域社会に貢献すべく地域産業活性化のための研究を開始した。

2. 研究の目的

研究の具体的目標は大きく分けて以下の4つに分けられる。

(1) 福岡を中心とした伝統的工芸品の活性化 (2) 福岡を中心とした地域産業の活性化 (3) 伝統的工芸品の意味や歴史および地域産業の認知度向上 (4) (1)～(3)を素材とした領域横断型実践力修得教育による人材育成

これらはいずれも、企業との連携を基盤に実践プログラムである。実施2カ年間の共通目的は、経済的・人的に縮小傾向にある地場産業に新たな活力を生み出す活動を行い、伝統的文化を理解・周知し、それら連携活動を通じて芸術系学生の実践的・汎用的能力を養うことである。また、美術・デザイン・映像メディア等のクリエイティブ・コミュニケーション領域を横断した新たな科目を一部考案することをも目標とした。

3. 研究の方法

芸術系学部を設置している総合大学、あるいは芸術系大学のカリキュラムでは、企業との連携を基盤とした専門的実践力横断養成講座は稀有であることを調査し、美術(造形/創造)・デザイン(企画/立案)・写真映

像(画像/映像記録)の3学科をひとつのチームとし、以下のような活動を実施した。

平成24年度の企画は以下に示す8個である。

1. 博多先染め帯(伝統的工芸品)の「八寸名古屋」「半幅」デザイン
2. 後染め帯の「おしゃれ着用袋帯」デザイン
3. 久留米緋(伝統的工芸品)の「裨纏」再評価
4. 博多人形(伝統的工芸品)の再生
5. 福岡とその周辺地域の伝承技術「博多包丁」「泥染」「博多織」の取材
6. 若者向け大川家具「女子家具」「男子家具」の提案
7. 伝統的工芸品「博多織」を普及するための教育的ワークショップ
8. 福岡の日本酒蔵元を取材し販売促進を図るCMワークショップ

上記1.2.3.では、織帯会社・染め帯会社・広幅織物製作会社と連携し、帯柄図案と半纏柄の新たな提案と商品コンセプトの再考など経済的効果の得られる研究を行った。4.では、非実用品であるという理由からさらにニーズが激減し、時代に取り残されている。そのため、桐箱をプラスチック・ケースに置き換え、高級土産物からリーズナブルなオブジェに転換し、購買層の拡大を模索した。5.では、後継者不足に悩む職人を取材し、写真作品に収めた。6.では、安価な輸入量産家具に市場が席卷される風潮の中、国産の材質を使用し、長期間使用できる高品質の若者用家具を提案した。7.では、未就学から小学校低学年の児童を対象に「博多織」の歴史・伝統をスライドレクチャーし、制作方法を大型模型で解説した後、実制作するワークショップを行なった。8.では、販売不振に悩む日本酒醸造元のCMを製作し、放映した。

平成25年度は、28社から協力を得、9個の企画が実施された。

1. 先染「博多織」帯+小物の商品コンセプト再提案、および後染「手描き」帯新デザイン+大島紬着尺新デザイン
2. 博多人形「童もの」+「美人もの」新デザイン
3. 大川家具女性用家具提案
4. 宗像「ガラス工芸品」+

「ステンレス製品」再提案 5. 能古の島「観光」+「食」再考 6. 久留米餅普及教育ワークショップ 7. 「博多織」伝統工芸士ドキュメンタリー写真作品 8. 糸島の食育CM 製作 9. 2. の学生デザインを用いた映像アート製作

上記1. では、織帯会社・染め帯会社と連携した帯柄図案、和装小物の新手案および商品コンセプトの再考、着尺柄デザインなどを行った。2. では、「童もの」と共に博多人形の代表的型「美人もの」を現代的デザインに転換した。3. では、繊細な工夫をデザインに取り入れた女性のための良質な家具を提案した。4. では、地域おこしの産業を模索した。5. では、観光産業と食品パッケージおよび広報の再提案を中心に、リゾート開発計画を行った。6. では、未就学から小学校低学年の児童を対象に「久留米餅」の歴史・模様などをスライドレクチャーし、制作方法を大型模型で解説した後、ワークショップを行なった。7. では、「博多織」工房を経営する二人の女性伝統工芸士のドキュメンタリー写真を製作した。8. では、糸島産の「無農薬農法」「天日塩」「手作り醤油」などをテーマとし、現代人の食についてのドキュメンタリー映像を製作した。9. では、2. を素材にし、プロジェクト・マッピング、タイムラプス、ストップモーション・アニメーションなど、さまざまな映像処理技術を用いた映像アートを製作した。

なお、1. 2. 3. では、実用化・商品化コンセプトのアンケートを実施し、市場の反応を調査した情報を企業に提供している。

4. 研究成果

2カ年に渡る研究成果は、年度毎に学内および公共施設で計8回公表した。

平成24年度の研究成果は「中間報告」を学内ギャラリー（2012. 20. 15~10. 21）で、「最終報告」は天神の商業施設イムズプラザ

（2013. 2. 26~3. 4）および国際・文化・交流の複合施設アクロス福岡（2013. 3. 20~3. 24）

で発表した。当該年度の「最終成果報告」には、低迷する地元企業の活性化を模索するアカデミックな活動としてメディアが取り上げ話題となった（図1）。本研究は実用化や商品化に至った例が多いことから、協力企業に活力を与える足がかりとなり、実社会に入る前のシミュレーションを学生に体験させることができた。また同時に、伝統的産業を広く周知することに貢献したと考えている。

平成25年度の成果発表は、前年度成果を福岡市の博多伝統工芸館（2013. 8. 2~8. 13）及び東京六本木のミッドタウン（2013. 8. 24~9. 8）で発表し、さらに発展させた活動を学内で、その後2013年度末に天神商業中心施設イムズプラザ（2014. 2. 20~3. 1）と博多駅商業施設（2014. 3. 26~3. 31）で発表した。当該年度は、在福岡米国領事館広報担当領事の調整で米国大使館広報・文化交流担当公使マーク・J・ディビッドソン氏を講演（2013. 9. 20）に招聘し、外国人の目を通じた地元の伝統工芸の美点や地場の産業の価値を学生が真摯に受け止める好機を得ることができた。

本研究の最終成果発表にはメディアの関心が非常に高く、ニュース番組ではNHK、KBC、RKB、FBS、紙面では、読売、毎日、朝日、西日本、天神経済新聞・博多経済新聞など報道各社が「九産大生が「地域産業展」」「九産大、企業が連携「プロジェクト展」」「地域伝統産業と九産大生コラボ「伝統工芸・産業若者目線で」などの見出しで成果発表を取り上げた（図2）。

学内的には、細分化された専門領域特化型カリキュラムを見直し、いくつかの汎用的応用科目を創案し実験的に実施している。たとえば、大学院博士前期課程の「デザイン総合研究(特)」、学部3年次開講科目「美術文化ゼミナール(特)」および「監」等実践的および汎用的能力修得を目的とした科目を組み込

んだ。また2013年秋からは、芸術学部を範とした領域横断型「プロジェクト型教育」が大学教育の基本的特色となっている。

本研究の重要性は、存亡の危機に瀕している伝統工芸を後世に継承し、地場の産業を活性化するなどの活動を通して芸術系学生の実践力修得や人材育成の基礎づくりを実現できたことにある。

学術面での報告は、2013年6月に筑波大学で開催された日本デザイン学会研究発表大会で「地域産業プロモーション1～4」を、また、2014年7月に福井工業大学で開催される同学会研究発表大会では、2013年度の活動報告と教育的成果について発表を行なうことが決定している。また、2013年3月発行および2014年3月発行の九州産業大学芸術学会誌には、美術的視点、総合デザインの視点、児童を対象とした教育ワークショップ、ドキュメンタリー写真、コマーシャル映像、プロジェクト・マッピング等を用いた映像アートなどをテーマとした地域連携に基づいた学生教育について報告を行なっている。



図 1



図 2

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 5 件)

①井上友子・佐藤佳代・青木幹太・星野浩司・荒巻大樹、「企業連携を通じた美術領域の可能性」『九州産業大学芸術学会研究報告』(九州産業大学芸術学会編集・発行) 第 45 巻、査読なし、2014 年、pp. 41-48.

②佐藤佳代・井上友子・青木幹太・星野浩司・荒巻大樹、「プロジェクト型教育と地域産業振興のためのワークショッププログラム」『九州産業大学芸術学会研究報告』(九州産業大学芸術学会編集・発行) 第 45 巻、査読なし、2014 年、pp. 49-56.

③青木幹太・井上友子・佐藤佳代・星野浩司・荒巻大樹、「地域産業プロモーションにおけるプロジェクト型教育の実際」『九州産業大学芸術学会研究報告』(九州産業大学芸術学会編集・発行) 第 45 巻、査読なし、2014 年、pp. 57-62.

④青木幹太・井上友子・佐藤佳代・星野浩司・荒巻大樹、「地域産業プロモーション 2012～博多人形のリ・デザイン」『九州産業大学芸術学会研究報告』(九州産業大学芸術学会編集・発行) 第 45 巻、査読なし、2014 年、pp. 71-74.

⑤荒巻大樹・井上友子・佐藤佳代・青木幹太・星野浩司、「地域産業プロモーションにおける写真作品制作について」『九州産業大学芸術学会研究報告』(九州産業大学芸術学会編集・発行) 第 45 巻、査読なし、2014 年、pp. 113-118.

〔学会発表〕(計 4 件)

①井上友子・佐藤佳代・青木幹太・佐藤慈・星野浩司・荒巻大樹、「企業連携を通じた実践力の修得」、日本デザイン学会、第 61 回春季研究発表大会、福井工業大学、2014 年 7 月(発表確定)

②青木幹太・井上友子・佐藤佳代・佐藤慈・

星野浩司・荒卷大樹、「プロジェクト型デザイン教育の実践」、日本デザイン学会、第 61 回春季研究発表大会、福井工業大学、2014 年 7 月（発表確定）

③星野浩司・井上友子・佐藤佳代・青木幹太・佐藤慈・荒卷大樹、「地域産業と食育を主題とした映像制作による実践教育プログラム開発」、日本デザイン学会、第 61 回春季研究発表大会、福井工業大学、2014 年 7 月（発表確定）

④佐藤慈・井上友子・佐藤佳代・青木幹太・星野浩司・荒卷大樹、「博多人形 PV 制作プロジェクト—地域産業の振興活動を通じた教育実践—」、日本デザイン学会、第 61 回春季研究発表大会、福井工業大学、2014 年 7 月（発表確定）

⑤隈本あゆみ・井上友子・佐藤佳代・青木幹太・佐藤慈・星野浩司・荒卷大樹、「産学連携による大川家具の商品開発プロセスと活動成果」、日本デザイン学会、第 61 回春季研究発表大会、福井工業大学、2014 年 7 月（発表確定）

⑥井上友子・佐藤佳代・青木幹太・星野浩司・荒卷大樹、「地域産業プロモーション計画 1」、日本デザイン学会、第 60 回春季研究発表大会、筑波大学、2013 年 6 月 21 日～23 日

⑦井上友子・佐藤佳代・青木幹太・星野浩司・荒卷大樹、「地域産業プロモーション計画 2」、日本デザイン学会、第 60 回春季研究発表大会、筑波大学、2013 年 6 月～23 日

⑧井上友子・佐藤佳代・青木幹太・星野浩司・荒卷大樹、「地域産業プロモーション計画 3」、日本デザイン学会、第 60 回春季研究発表大会、筑波大学、2013 年 6 月～23 日

⑨井上友子・佐藤佳代・青木幹太・星野浩司・荒卷大樹、「地域産業プロモーション計画 4」、日本デザイン学会、第 60 回春季研究発表大会、筑波大学、2013 年 6 月～23 日

〔招待講演〕（計 1 件）

青木幹太、「伝統工芸とデジタルコンテンツ」、東京ミッドタウン・デザインハブ、2013 年 8 月

6. 研究組織

(1) 研究代表者

井上 友子 (INOUE TOMOKO)
九州産業大学・芸術学部・教授
研究者番号：90330787

(2) 研究分担者

青木 幹太 (AOKI KANTA)
九州産業大学・芸術学部・教授
研究者番号：70159276
星野 浩司 (HOSHINO KOUSHI)
九州産業大学・芸術学部・准教授
研究者番号：60552205
佐藤 佳代 (SATO KAYO)
九州産業大学・芸術学部・准教授
研究者番号：70454907